

【様式4】令和4年度 学校自己、及び、学校関係者評価表 武蔵村山市立第五中学校

経営理念	(1) 主体的に学習・生活し、学力・体力の向上を目指す学校 (2) 自他の人権を尊重する精神を育てる学校 (3) 地域に根ざし、地域と共につくる学校
------	--

【学校運営協議会・会長】 宮崎 保
学校運営協議会（学校評価分） 第1回 6月2日（木）
第2回 11月10日（木）
第3回 2月16日（木）

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価	
				10月 1月 目標値		最終評価				意見	評価点 (4点満点)
				達成値	達成値	達成度	評価				
確かな学力の向上	【中期】全生徒に対しての基礎学力の定着を図る。	地球未来塾事業や東京都立武蔵村山高等学校生徒の学習サポートを活用し、定期考査前や放課後、長期休業中に、補習授業や補充教室を実施する。	・補習授業・補充教室の回数(時間) ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90		87	A	定期考査前に、担当教科の教員が補習教室を計画的に行うことができた(年間5回)。「地域未来塾」を計画的に活用し、夏季休業日及び6月から2月まで、3年生の数学と英語の学習を毎週行った。夏季休業中には、武蔵村山高校の生徒を招き1年生を対象に学習会を開催できた。	来年度も引き続き、定期考査前の補習教室、「地域未来塾」、武蔵村山高校の生徒による学習サポートを実施し、基礎学力の定着を図る。地域未来塾の参加者が、時期が進むと不参加数が増えてしまっていた。年間を通して参加するよう、声掛けを続ける。	基礎学力の定着に関しては学校の取組は理解できるが、定着したかは個人差があるように思う。夏季休業中の学習サポートは、武蔵村山高校の生徒の協力を得て、今年度は多くの高校生が参加してくれた。学校からの投げかけもあり、定着をはかるための動きかけは評価できる。	3.3
	【中期】家庭学習時間を増やし、習慣化を図る。	「学習の手引き」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。保護者会や学年便りなどで、家庭学習習慣の確立に向けた保護者への啓発を行う。各教科で家庭学習課題に継続して取り組ませる。	・家庭学習に取り組んだ時間 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	85		75	B	昨年度に続き、家庭との連携を深めるために、学習の手引きの改訂版(保護者の役割掲載)を配布し、協力を求めている。しかし、今年度も家庭学習の習慣化は十分とは言えない状況である。	次年度も年度当初に、学級活動等で担任から「学習の手引き」を使った指導を行い、習慣化を目指す。家庭学習ができる学習支援コンテンツを活用してもらうよう保護者会や面談等で家庭に協力を求めていく。	学校から生徒や保護者に対する家庭学習の呼びかけや啓発は見られるが、十分に浸透しているかは疑問。家庭学習の習慣がまだ身に付いていない生徒も多いのではないかと。継続して行ってほしい。	2.9
	【中期】読書活動・朝学習の活性化を図る。	朝学活終了後、朝読書や朝学習、NIEを実施する。また、学校司書と連携し、学級図書や図書室活用を通して、本への興味・関心を高め、読書量を増やす。さらに1人1台のタブレット端末を活用し、朝学習を行う。	・図書室の利用生徒数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	85		76	B	今年度も学年ごと曜日を設定して朝読書を行った。年間五冊以上の読書を目指したが、4割程度の生徒しか達成ができず、十分に身に付いたとはいえない。図書室の活用は、昨年度の引き続き、感染症防止対策を行い開館することができた。	例年とは違い、貸し出し可能冊数を感染状況に合わせて変えるなど工夫をしながらの図書活用を行った。来年度も図書室の利用や学級図書の活用の仕方を工夫して行っていく。	朝読書や朝学習を行うことで、授業に入る前の姿勢が整うので、これは良い方向だと思う。活字離れが叫ばれる昨今、図書室の活用や朝読書を通してしっかり活字に触れてほしい。タブレット端末は環境によるのかもしれないが、もっと活用してもよいのでは。	3.0
	【中期】基礎的・基本的事項の向上を図る。	各種検定(英検・漢検・数検)に自主的に取り組み、学習意欲と基礎的・基本的事項の向上を図る。	・検定受験生徒の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	85		71	B	英検、漢検、数検の受験を勧め、英検と漢検については、学校会場として、開催することができた。	次年度も漢字・英語・数学の各検定の日程を生徒へ周知し、受験を奨励し、いずれかの資格を取得させるよう努める。	各種検定を学校内で催し、チャレンジしやすい環境にあると思う。検定に向けての学習を基礎学力の向上や家庭学習の習慣付けに結び付けてほしい。	3.1
豊かな心の育成	【中期】いじめ撲滅への取組	年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談、人権教育に関する授業を行い、生徒が主体的にいじめ防止の取組を行うよう推進する。SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う。道徳の授業において生命尊重や思いやりを重点に指導する。また、道徳授業地区公開講座等保護者の参加を促し、家庭と連携した取組を行う。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90		79	B	年3回のふれあい月間によるアンケートや教員と生徒の2者面談等を行い、いじめ防止の取組を行ってきた。また、今年度も2名のスクールカウンセラーを配置してもらい、生徒や保護者のカウンセリングも行うことができた。五中サミットでは、小中高が集まり、いじめ撲滅について討議させることができた。	SNS教室ではLINE社の方を講師に招いて情報モラル教育を行った。道徳授業地区公開講座では、教員・地域・保護者で家庭や地域でできる道徳教育についてグループディスカッションを行うことができた。五中サミットを継続し、校区で連携しいじめ撲滅に取り組ませたい。	コロナ禍で生徒を取り巻く環境や学校行事への取組もこれまでとは異なると思うので、生徒の細かな変化にも目を向け続けてほしい。SNSに関するトラブルは年々、低年齢化し増加しているようなので、家庭とも連携して取り組んでほしい。	3.1
	【中期】特別な支援を要する生徒への対応	特別支援教室、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関と連携し、教育相談活動の充実を図るとともに、ユニバーサルデザインを推進する。また、教育相談部会を中心に個に応じた指導を進める。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90		81	A	毎週1回開催する教育相談部会にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも参加していただき、生徒支援の具体策の検討・実施を行うことができた。巡回心理士や特別支援教室の指導教員と協働して、個別指導や特別の支援が必要な生徒への指導を行うことができた。	次年度も、教育相談部会にスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーに参加していただき、関連機関との迅速な連携を行う。特別支援コーディネーターや特別支援教室の指導教諭、巡回心理士を中心に不登校生徒や特別の支援が必要な生徒の支援体制を充実させる。	特別な支援を要する生徒は年々増えていると聞く。そんな中で五中に特別支援教室が開設され、保護者にも浸透しつつある。該当する生徒や保護者だけでなく、周囲の生徒への理解も進めてほしい。	2.9
	【短期】地域活動・ボランティア活動を充実させる。	担当者の計画的なボランティア募集等の取組により、地域行事やボランティア活動への生徒の参加率を高めていく。また、小中連携の取組として生徒会を中心に、あいさつ運動やペットボトル回収などを行う。	・参加した生徒の延べ人数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90		68	B	二小・八小・十小とのあいさつ運動とペットボトルキャップ回収を行うことができた。生徒会役員と図書委員による、小学生への読み聞かせも行うことができた。	次年度も、校区の小中学校と連携した取組と地域行事へのボランティア参加を生徒に促していく。	地域とのつながりは生徒の心のふるさとなるなど、生徒一人一人の人間としての役割を感じられる大切な事柄だと思う。徐々にコロナ禍でできなかったイベントが復活してきているので、来年度以降も積極的に参加してほしい。	3.2
健やかな体の育成	【中期】学校2020レガシーの推進	オリンピック・パラリンピック教育で培った「学校2020レガシー」を推進する取組を行う。また、豊かな国際感覚を養うとともに、体験や交流を通して、障害者理解やボランティア活動を推進する。	・オリパラに関する授業の実施回数 ・教師自己評価 ・生徒アンケート	85		79	B	障害者理解を深めるために、ブラインドサッカー選手を招き、「見る・聞く・触れる」体験を中心とした講習を行っていた。	来年度も、オリンピックやパラリンピックを講師に招き、国際理解教育や障害者理解教育、SDGsを推進していく。	様々な機会に生徒たちが触れ合えることはとても重要だと思う。オリンピック・パラリンピックが終わっても、そのような体験や交流が続けられるなら続けてほしい。	3.1
	【短期】基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高める。	残食ゼロウィークに積極的に参加し、給食の残菜率の結果分析に基づき、食育の取組を行う。給食時の放送を利用して、食材の紹介や食育をする推進する取組を行う。	・給食残菜率調査 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90		80	A	今年度は、新型コロナウイルス感染防止の取組(給食前の手洗いの徹底、給食係の手指消毒の徹底、班での給食を止め、個人での黙食等を実施)を継続した。「残食ゼロウィーク」として、いただきますの時間を早めるキャンペーンを行い、給食時間を確保することをやった。また、風の放送で、食材の紹介等を行った。	年度当初の呼びかけと徹底で新型コロナウイルス感染防止の取組が根付いたので来年度も継続して行う。また、風の放送を活用し給食について知らせたい。来年度も、残食ゼロウィークを給食委員会を中心に取り組んでいく。	環境やゴミ問題など未来を生きる生徒たちに食育は必要だと思う。SDGsにもつながることなので、続けてほしい。給食に地域食材もよく使われているので生徒にはそのあたりも知ってほしい。	3.1
開かれた学校	【中期】コミュニティ・スクールとして、学校への参画意識を高める。	コミュニティ・スクールとして、活動方針や活動内容を周知し、様々な取組(五中フェスティバル・プロから学べ会等)を推進する。	・学校運営協議会が関わる活動に参加した生徒・保護者の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90		87	A	今年度も、職場体験が実施できなかったが、プロから学べ会にて職業講話を実施した。また、3年生に対し、面接官として模擬面接を実施していただいた。今年度の芝刈りや防犯パトロールもPTA役員や地域の方に参加していただき実施することができた。	3年生に対しての模擬面接は、緊張感をもたず意味でも継続していきたい。また、職業講話(プロから学べ会)は、次年度も継続していきたい。次年度もPTA・地域の方々の協力得ながら、芝刈りや防犯パトロールを実施していきたい。	コミュニティ・スクールの活動が盛んで生徒もよくそれに応えている。五中フェスティバルやプロから学べ会はコロナ禍で制限が多い中、滞りなく開催できて良かった。これからもぜひ続けていきたいと思います。	3.8
	【中期】保護者・地域の教育力を取り入れた教育活動の展開	地域行事へ積極的に参加し、地域の教育力で社会性を育て、SDGsを知り、国際理解教育を推進し、地域との交流を進める。	・外部講師の活用回数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90		80	A	今年度も2、3年生を対象に、五中フェスティバルを行うことができた。地域の方々の協力で、生徒が生き生きと活動できたことはとても大きかった。	次年度は、地域行事に参加できるよう声掛けを行っている。また、SDGsや国際理解教育を推進できるよう計画を立て、準備をしていく。	地域の教育力も生徒にとって大切なものとなっていると思う。学校運営協議会の取組が充実することで地域の力になればと思う。国際理解教育はどのような取組があったかよく分からなかった。	3.4

【達成度】 = [達成値] / [目標値] 平均値 3.2
 【評価】 A: 8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定 B: 8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施 C: 5割未満→目標の見直し